

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・人の動き、物の動きが改善している。少しずつではあるが景気は回復している。
		旅行代理店（企画）	・客の動きが活発になっており、手控えていた需要が増える可能性がある。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・客の低価格志向が進んでいる。バーゲン時期はよく売れるが、定価販売品があまり売れない。商店街ではその傾向が強まっている。ただ、3か月先は需要期に入り、人が動く時期になるため、今よりはやや良くなる。
		百貨店（営業担当）	・客の慎重な買物姿勢は継続中であるが、ギフトの店頭受注及び店外受注が好調である。特に自家需要喚起の持帰りコーナーや東北ギフトコーナー、台風、雨の影響でインターネット受注、郵便局等店外での受注の伸びが大きい。節電関連商品等で購買意欲が増している。
		スーパー（店長）	・前年は猛暑が続き、売れる物が限られていたが、今年は平年並みの天気が続く、秋冬物商品の前倒し購入の傾向がある。また節電エコ関連商品を中心に、新製品の動きが活発になる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・客の様子をみると、平年より気温が高くなれば、飲料水やアイスクリームを中心とした商品が売れ、少しずつ景気は良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・ちょうど100周年となり、販売促進の企画を行っているため、来客は多く、これから良くなる。
		衣料品専門店（総務担当）	・数店の競合他社が閉店する。このことは商店街全体にとってはマイナスであるが、本店にとっては短期的にはプラスに作用するため、良くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・業界全体の販売見通しは前年を若干下回るが、当社は画期的な商品の投入を考えており、今後の販売の弾みになるため、若干良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・ボーナス月の動きは少なかったが、九州新幹線の全線開業や東日本大震災の影響で九州を観光地として選ぶ観光客が増加しており、今後も若干良くなる。
		スナック（経営者）	・新規来店客がちらほらみられ、今後少し良くなる。
		観光ホテル（総務担当）	・7～8月の客室稼働率は前年を上回る見込みである。
		都市型ホテル（総支配人）	・東日本大震災以降、全く需要のなかったインバウンドの宿泊が、徐々に回復傾向にある。2、3か月後には、ほぼ震災前の状況に戻る。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会部門では春先に予定していた会合等が秋口に移行していることもあり、好調である。宿泊部門では小規模ながら団体客の動きがあり、前年を上回っている。
		ゴルフ場（従業員）	・例年と同じく8月の予約状況は良くない。客は年々減少している。9月以降は大分持ち直す見込みであり、良い状況となる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・気候的には10月ごろまでは客の増加が期待できる時期である。	
	変わらない	商店街（代表者）	・客の商店街離れが続いており、呼び戻すための対策もない。9、10月はいくらか気候が良くなるため、例年通り今よりは良くなる。
		商店街（代表者）	・東日本大震災以来、消費は一部を除いて低迷している。今後、少し良くなるかもしれないが、変わらない状況が続く。
		商店街（代表者）	・節電対策により、家から出て商店街に買物をする客が増えると良くなる。ただ全体的に節電が経済にどのように影響を及ぼすか計り知れない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・購買心をそそるようなプラス材料がなく、逆にマイナス材料が多い。食品の放射能汚染問題等、当地には直接関係ないが、購買心に悪影響を及ぼす材料が多く、かなり厳しい状況が続く。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）		・客の様子から売れそうな気配が全くない。朝晩だけでも涼しくなってくれれば、売れる。	
一般小売店〔茶〕（販売・事務）		・猛暑が過ぎ、涼しくなれば徐々に売上は上がるが、待っているだけでは何も変わらないため、何らかの対策が必要となる。	
百貨店（営業担当）		・福島第一原子力発電所事故の収束のめどが立っておらず、今後ますますこの被害は拡散、拡大していく。客の購買意欲は低下し続けており、厳しい状況が続く。	

百貨店（業務担当）	・節電を始め、あたり前の日常でないことに不安を感じている客が多い。出費を抑える動きが強く、短期間で景気回復には至らない。
百貨店（売場担当）	・競合他社が閉店し、天候要因はあるが、今後の売上は若干良くなる。当地の景況感は決して悪くはない。
百貨店（企画）	・来客数、売上共に前年並みで推移しており、今後についても売上が大きく増えるような要因は見当たらない。ただ、円高が進めば消費動向に影響が出るので注視を要する。
百貨店（営業政策担当）	・夏場の電力供給不足の影響がある程度長期化すると、食品の放射能汚染問題のように、東北を中心に国産畜産物、農作物等への不安が消費意欲を停滞させる。
スーパー（経営者）	・福島第一原子力発電所の問題や東日本大震災の復興問題、また政治の先行きが不透明ななか、客の購買意欲が上がらない。
スーパー（店長）	・ギフトの売行きは前年よりも早期展開で順調に推移している。特典やポイントを5倍にしたり、販売促進商品等により、来客数が増える状況である。客は今、値段にはそれほどこだわっておらず、購買意欲は変わらない。ただ、食品の放射能汚染問題が来月以降も懸念材料としてある。
スーパー（店長）	・ボーナス時期も中元ギフトもなかなか売上が伸びず、客の節約ムードはかなり浸透している。今後も買い控えの状況が続く。
スーパー（店長）	・野菜の価格高騰は売上を増加させるが、小麦製品やその他の値上げ等は売上の低下につながる。全体的には現在とそう変わらない。
スーパー（店長）	・食品の放射能汚染問題がまだ収束していない。また、競合店の状況が一段と厳しくなっているなか、2、3か月後に好転するとはなかなか考えられない。ただ秋口、旬のさんまや果物等が順調に入荷してくれば、これを機に好転する。
スーパー（経理担当）	・緩やかな回復はあるが、その幅はわずかであり、今後もあまり変わらない。
スーパー（業務担当）	・ここ数か月、景気上昇に関する好材料がないという状況である。まずは東日本大震災復興と福島第一原子力発電所問題の解決のめどがつかなければ、消費者はゆとりある日常生活ができないという声が多く客から聞かれた。
コンビニ（経営者）	・梅雨明けが早かったため7月の前半の売行きは良かったが、後半は非常に悪くなった。今後、良くなる材料が見当たらない。
衣料品専門店（店員）	・客の話を聞くと徐々に通常の生活に戻ってきているが、景気はすぐには変動しない。
衣料品専門店（取締役）	・10月は秋らしい気候になるが、ただ物の動きがどこまで正常に戻るか予測がつかない。引き続き企業努力をしながら、利益を確保していくことに努めるほかない。
乗用車販売店（従業員）	・今年いっぱい納期に時間を要するため、急いで購入しようという客は多くない。
乗用車販売店（総務担当）	・新車の受注が頭打ちになっている。メーカーによる新車広告の手控えもあり、来客数が伸びない。新車、中古車、サービスの売上は現状維持が精一杯である。
住関連専門店（経営者）	・消費者は景気の先行きに不安があり、節電節約傾向が強まっており、置き家具の買換え等の消費意欲が低迷している。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・販売量や客の様子をみると、前年とほぼ変わらない状況である。自家消費用コーヒーの買上量や中元等のギフト、進物関係もほぼ横ばい状態であり、今後も前年と変わらないと予測する。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・アナログ放送の終了によるテレビ関連商品の特需は一時的なものである。今夏は例年より暑さが続くため、燃料油や洗車等のカーケア商品の販売増加に期待される。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・震災の影響が遅れて出ている。今後、復興需要の影響も遅れて出てくる。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（総支配人）	・福島第一原子力発電所問題での電力不足や放射能による社会不安、政治の混乱が解決されない状況では、産業界が活性化されない。雇用不安も醸成され、消費者は生活防衛のための節約を優先し、生活必需品以外の消費が拡大するような傾向がみられない。
高級レストラン（社長）	・観光客の来客がまだ例年通りに戻っていない。
高級レストラン（専務）	・観光客が増えており、当地の観光関連業者は良くなっている。ただ、その他の業種は九州新幹線全線開業の効果はほとんどなく、良くなっていない。

	その他飲食 [居酒屋] (店長)	・ 当地は観光客が増えており、客足が流れてきているので良くなっている。今後とも来客数の増加に努めなければならない。
	都市型ホテル (副支配人)	・ 駅ビル開業の影響が出ており、少しずつ客が増えてきている。
	旅行代理店 (従業員)	・ 9月は3連休が2回あり、予約数は前年を上回る。しかし高額商品はなかなか売れず、単価は前年を下回る。
	タクシー運転手	・ いろんなイベントで人出は良くなり、乗客も多い。ただ、夜の繁華街は会社関係があまり動かないので、これから先もあまり変わらない。
	通信会社 (業務担当)	・ 8月は引き続き、夏のキャンペーンセールが実施されるが、新商品等の動きも落ち着き、販売数は横ばいになる。
	通信会社 (企画担当)	・ 引き続き通信回線のエリア拡大による販売増が期待できるが、それ以外に景気が変動する要因はみえない。
	テーマパーク (職員)	・ 現在の予約推移をみても急激な回復は見込めず、地道にセールスマーケティング活動を続けるしかない。好転への追い風となる材料がないため変わらない。
	ゴルフ場 (支配人)	・ 9月は平年よりも気温が高いとの予報であり、8月の猛暑が9月まで続くと予想されるため、来客数はあまり見込めない。早朝、薄暮にかなりの組数が入ること、土日の客寄せキャンペーンを張らざるを得ないこと等から客単価は年々下がり続けている。
	美容室 (店長)	・ 客も少しでも安い店に行こうという傾向が強い。2、3か月先もあまり変わらない。
	設計事務所 (所長)	・ われわれの仕事は2、3か月先に結果が出るが、今月の引き合いが悪く、2、3か月先は良くない。
	住宅販売会社 (従業員)	・ 住宅エコポイント制度が7月末で終了し、公的補助による付加価値が減少する。
やや悪くなる	商店街 (代表者)	・ 売上が悪くなってきており、良くなる見通しが無い。
	商店街 (代表者)	・ 東日本大震災復興による増税の可能性や子ども手当の減額等、特に低所得者、年金生活者にとっては購買意欲をなくす要因ばかりで小売業にとっては厳しい環境が続く。
	一般小売店 [精肉] (店員)	・ 前年のように猛暑が続けば、客が外出を控えるようになり、売上は良くならない。
	百貨店 (売場主任)	・ 節電意識の高まりでクールビズ商材を中心に紳士洋品の動きが堅調であったが、後半のクリアランスの盛り上がりがありあまり良くない。今後も厳しい状況が続く。
	百貨店 (営業担当)	・ 当地は前年の口蹄疫問題の裏年ということで非常に期待していたが、来客数、売上共に苦戦している。また電力不足等も影響し、客の消費マインドは非常に冷え込んでくる。
	百貨店 (販売促進担当)	・ 9月も残暑が続くと予想されるなか、秋冬商材の売行きに影響がある。
	スーパー (店長)	・ 福島第一原子力発電所問題が依然として解決する気配がなく、最近では牛肉関係の落ち込みも目立つ。今後も消費者の先行き不透明感は好転せず、厳しい状況が続く。
	スーパー (総務担当)	・ 節電関連商品は夏場ほどの売行きが期待できず、食品の放射能汚染問題の影響による食の不安が更に広がることが予想され、厳しい。
	スーパー (売場担当)	・ 前年は猛暑だったが、今年は例年並みの気温なので季節商材の売上は前年より下がる。
	コンビニ (エリア担当)	・ 電気料金を中心とした公共料金の上昇が見込まれ、客の購買意欲に大きく影響する。
	コンビニ (販売促進担当)	・ 今月は暑く、前年よりも受注が少なくなっており、客単価は下がっている。昨今の動きは非常に流動的であり、今後、良くなる動きもない。
	家電量販店 (店員)	・ 地上デジタル放送への完全移行へ向け、これまでは地上デジタル放送対応テレビとチューナーが販売量を非常に伸ばしていた。しかし24日過ぎると、パタリと動きが止まってしまった。今後伸びる要素もなく、前年ほどの猛暑はないだろうとエアコンの売上も止まっている。今よりは悪くなっているのではないかと危惧している。
	家電量販店 (総務担当)	・ 季節商材の動きが鈍く、またアナログ放送の終了によるテレビの需要が一気に減少し、全体的に低迷気味である。
	乗用車販売店 (代表)	・ 東日本大震災や円高等により、資金力のない中小零細企業は、ますます悪くなる。
	自動車備品販売店 (従業員)	・ 電力不足の問題により、当店をはじめ、小売業やサービス業、運送業を中心に景気低迷が続いている。
住関連専門店 (店長)	・ 夏物の動きが前倒しになった分、後半の失速が目立つ。まだ7月であるが、夏物の動きがすでに晩期に近づいた印象である。今後、秋冬物へ商品は移行していくが、東日本大震災の影響で商品の入荷が困難との予測があり、しばらくは需要と供給のバランスがとれそうにない。	

	高級レストラン（経営者）	・今月は少し回復したが、来月の予約をみる限り、今後はかなり厳しい状況である。8月は盆休みも入り、飲食業が一番落ち込む2、8月であり、厳しい。また、9、10月も残暑厳しい折なので、少しずつ新しいフグ等を打ち出していないと厳しい。	
	タクシー運転手	・10月ごろは食べ物がおいしい時期になるが、今年はあらゆる面で食料の需給に異変が起こっており、物価が若干上がっている。消費者の節約志向は強まっており、乗客は減少する。	
	タクシー運転手	・客の財布のひもがとにかたく固く、売上がかなり悪い状況である。回復の見込みは今のところない。	
	タクシー運転手	・今年は昼が暑過ぎて人の動きが悪く、夏休みの動向もあまり期待できない。9月になってもゴルフ客があまり期待できず、厳しい状況が続く。	
	通信会社（総務局）	・7月24日のアナログ放送の終了後は、売上の減少が予想される。	
	競輪場（職員）	・電力供給問題の影響で来場者数が減っている。	
	理容室（経営者）	・今月は梅雨明けが早く、暑くなるのも早かったため、客の来店が通常よりは少し多い。ただ一時的に良いだけで、2、3か月先はまだ上向きの状況ではなく、良くなる要素はない。	
	音楽教室（管理担当）	・世帯主の所得が減っており、子どもにかけるお金が減っている。	
	その他サービスの動向を把握できる者 [フィットネスクラブ]（営業）	・家電関係は動いているが、その他の業界は厳しいまま推移する。	
	住宅販売会社（従業員）	・客の様子と全体的な状況を鑑みると、土地に対する購入意欲はあるが、なかなか成約に至らない。今のところ設備投資や土地の購入、アパート経営をしようという意欲は若干薄らいでいる状況で、将来的に土地の動きは悪くなる。	
悪くなる	一般小売店 [生花]（経営者）	・夏場は例年動きは悪いが、今年もギフトでの花の需要はほとんどない。いろいろ新たな方法を試行錯誤しながら探していないとかなり厳しい。	
	スーパー（総務担当）	・夏場の電力不足により節約ムードが進行し、消費マインドに影響している。今後も客の争奪合戦の激化が加速し、販売促進費のコストを吸収するほどの売上の増加は期待できない。	
	衣料品専門店（店長）	・来月から道路拡張工事がいよいよ本格稼働し、来街者が一段と減るため、売上は期待できない。	
	衣料品専門店（店長）	・衣料品でもクールビズ等の商品は売行きがまあまあいいが、ファッション関係は相変わらず売行きが悪い。全般的に節約ムードが定着している。	
	家電量販店（店員）	・エコポイント制度やアナログ放送停波の影響で、地上デジタル放送対応のテレビの売行きが良い。地上デジタル放送完全移行した7月24日を境にテレビの売上は下がっており、8～10月の家電の先行きは悪くなる。	
企業動向関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・食品の放射能汚染問題については、今後、検査体制が逐一始まる予定なので、ある程度は良くなる。ただしこれまでの非常に厳しい状況は変わらない。
		食料品製造業（経営者）	・秋からの季節商材の引き合いが多く、受注も増える見込みである。
		家具製造業（従業員）	・東日本大震災や福島第一原子力発電所事故の影響も収束に向かいつつあり、仙台地区からの需要がおう盛になっている。特にコンビニの出店や大型の商業施設などが出店を加速させており、今年の後半から来年にかけてはかなり上向く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・10月位迄の納期の仕事が受注でき、ようやく落ち着いてきている。
		精密機械器具製造業（従業員）	・生産計画では今後も一部部品の受注が増産となる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・生産計画数が増加し、東日本大震災前の水準以上の生産量となる。
		建設業（社員）	・総合評価の一般競争入札の発注が前年度、10本程度であったのが、今年度は、一般競争入札が全件総合評価になり、受注できる業者が偏るのではないかと危惧される。
		通信業（経理担当）	・東日本大震災の復興需要が本格化する。
		金融業（調査担当）	・九州地区の電力不足問題や倒産件数の増加傾向が気になるが、東北地方の食品の放射能汚染問題を考えると、九州地区の一次産品の需要が期待され、やや良くなる。
		金融業（得意先担当）	・現状は4～6月に比べて持ち直しの動きが見受けられる。今後も取引先の業況等に注視する必要がある。

	新聞社（広告）（担当者）	・本社機能の移転に伴う求人広告や高速道路料金引下げの終了に伴い、観光客の減少が予想される観光地等の広告出稿が増える見込みである。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・7月後半は夏休みに入ったこともあり、旅行者を中心に多くの人出が出ているような印象を受ける。若干暑さの問題はあるが、8月は九州新幹線全線開業の効果も出始め、前年より潤ってくる。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先からの業況を聞くと、向こう数か月は安定した業績を維持できそうであるとの回答が多い。
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	・設備投資における引き合い案件の件数、金額共に前年を大幅に上回る水準で出ており、電力供給力の問題、円高のリスク等懸念される事項もあるが、当面上向き基調で推移する。
変わらない	農林水産業（経営者）	・例年秋口は年末需要の生産のため、冷食加工メーカーの需要が大きく期待できる。スーパーや居酒屋も秋の行楽シーズンを控え、特に運動会等の行事が大いに期待できる。ただ牛肉中毒事件による生食加工品の不信等から少し不安定な要素もある。
	食料品製造業（経営者）	・東日本大震災の影響もあり、観光客の入込数が前年と比較して確実に増加しており、この傾向は少なくとも秋までは続くものと期待できる。ただこの傾向がいつまで続くかは明確な原因分析ができておらず、不安要素である。
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・自治体であれば予算実行は10月以降に集中するため、受注量としてはあまり変化がない。民間企業は引き続き、買い控えの状態が続いている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・夏場が最盛期で今後、秋に向かってはいくらか良くなる。ただ問屋の倒産等もあり、総じてあまり変わらない。
	鉄鋼業（経営者）	・九州地区の建築着工統計における新設住宅着工戸数や非居住用の着工建築床面積がいずれも4、5月と前年同月比で大幅なプラスとなっている。今後の鋼材需要が増加することが期待されるが、足元では見積及び成約共に閑散としており、需要の実態が不透明である。6月以降の建築着工統計に注目したい。
	一般機械器具製造業（経営者）	・客からの引き合い状況から、当分はこの状態が続く。
	電気機械器具製造業（経営者）	・全般的に半導体関連は非常に不透明感が増しており、各社共に見通しが立っていないのが実態である。ますます悪くなる状況である。
	輸送業（従業員）	・大幅に回復するような要因がない。
	通信業（職員）	・年度末から来年度にかけて発注見込みの見積案件が多く、今後、景気が良くなる兆しはあるが、2、3か月先では大きな変化はない。
	金融業（営業担当）	・国内の中小企業の業況は、回復基調にあるが、米国やヨーロッパ諸国の財政問題等不安要因もあり、改善は見込めない。
	金融業（営業）	・中国向け輸出を中心に受注は増加しているが、円高の影響が懸念される。
	不動産業（従業員）	・近隣商業施設の売上が前年同様に推移している。
	広告代理店（従業員）	・売上の前年比が前年並みの状態で推移しており、勢いが感じられない。
		広告代理店（従業員）
	経営コンサルタント	・沈滞したムードがあり、企業も新しい動きに取り組もうという積極的な動きがみえない。今後も厳しい状況が続く。
やや悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・受注先の様子をみても良くなるか悪くなるか分らない。この苦難を乗り越えるため、技術力の向上やコスト削減等、出来る限りのことは十分やってきたので、この時代に合うような新商品を作ることが大切となっている。
	建設業（従業員）	・設備投資が低調であり、工事量自体が減少傾向にある。また、競争が激化し、利益確保も大変難しくなっている。
	輸送業（総務）	・燃料価格が上がり始めており、景気回復への影響が懸念される。
	輸送業（総務担当）	・節電対策が節約ムードにつながり、7月はだんだん荷動きが悪くなっている。電力問題が落ち着くまではあまり良くならない。
	金融業（営業職外係）	・米国の債務不履行問題等で円高が急速に進行しており、取引先の輸出企業を中心に業績が悪化し、景気は悪くなる。
悪くなる	金属製品製造業（企画担当）	・急速な円高、混迷する政権、一向に進展しない東日本大震災の復旧、福島第一原子力発電所の問題等先行きが不透明であり、全く希望を見出せない状況である。

		経営コンサルタント (社員)	・物が売れる速度が遅く、購入アイテムが少なくなっている。		
		その他サービス業〔設計事務所〕(代表取締役)	・請負業者の低価格競争のなかで落札された実績をもとに、市町村の発注する事業の積算が、低く見積られる傾向が続いている。入札時に請負業者はさらに低く見積もらざるを得ない。この悪循環が続くと事業者の経営はより厳しくなる。		
雇用 関連	良くなる やや良くなる	—	—		
		人材派遣会社(社員)	・スマートフォンの普及に付随する派遣依頼も増えており、新商品定着までの売上の増加が期待される。		
		人材派遣会社(社員)	・秋から年末に向けて、需要が少し見込める。		
		人材派遣会社(社員)	・注文が増え続けており、もうしばらくはこの現状が続く。観光客の状況も回復してきており、それへの対応で注文がきている。		
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・秋に当地区に大型商業施設がオープンする予定である。求人市場がまた活性化されるが、周辺企業の採用はますます厳しくなりそうだ。		
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・製造業の回復基調は継続すると予想しており、小売やサービスにも波及し始めている。		
		職業安定所(職員)	・企業間で差はあるものの、企業への訪問等の状況をみると、業況の改善がみられる企業が多く、新規求人数は11か月連続で前年同月比が増加しており、今後やや改善する。		
		学校〔専門学校〕(就職担当)	・企業からのコメントにより、売上の増加や物の動きが良いと言った業績に関する上向きの話が比較的多い。		
		変わらない		人材派遣会社(社員)	・住宅メーカーなどは、東日本大震災復興の関係で忙しくなるが、九州にまで波及することはないだろうとのことである。業界問わず東日本大震災の復興による恩恵を受けるところは少ない。
				職業安定所(所長)	・新規求人の状況等からは回復感がうかがえるが、依然として長期失業者及び無業者等の有効求職者は横ばい、もしくは増加している。
職業安定所(職員)	・夏場の電力不足、円高基調、福島第一原子力発電所の影響等、不安定要素があるが、採用意欲は依然として高く、当面は現状の水準で推移する。				
職業安定所(職員)	・求人の提出数が大きく改善する要素はなく、有効求職者数が大きく減少する要素もないため、雇用環境の大幅な改善はない。公務員賃金の抑制や最低賃金の引上げ幅が小さいため、ここ2、3か月の間で景気が改善するとは考えにくい。				
職業安定所(職員)	・求人数の改善は続くが、在職者や無業者が滞留傾向にあり、有効求職者数の微増傾向が続く。				
民間職業紹介機関(職員)	・現在の市況感では、景気が良くなる要素は見当たらない。				
民間職業紹介機関(支店長)	・東日本大震災によるマイナス影響が落ち着きつつある業種もあるが、依然として人材のオーダー数が少ない。				
学校〔大学〕(就職支援業務)	・求人数は前年を上回っているものの、しばらく横ばいが続く。				
やや悪くなる		民間職業紹介機関(社員)	・成長企業や成長している業界がみえてこない。新エネルギー分野もまだ計画段階が多く、雇用面までには話が至っていない。		
悪くなる		○	○		